

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No17(新著の紹介)

#9 服部憲児著『フランスの教員養成制度と近年の改革動向』
—研究力が求められる教員—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)



服部憲児

はっとり けんじ

京都大学大学院教育学研究科・准教授

京都大学大学院教育学研究科・博士後期課程中退
広島大学、宮崎大学、大阪教育大学、大阪大学を経て、
2013年より現職。



新著の紹介



服部憲児（2022）．フランスの教員養成制度と近年の改革動向～今後の日本の教員養成を考えるために～ ジアース教育新社

目次

はじめに

- I. 近年の日本における教員の育成政策
 - II. フランスの教育制度
 - III. フランスの教員制度
 - IV. フランスの教員養成制度改革
 - V. マクロン政権下における教員養成制度改革
 - VI. フランスにおける教職への人材誘導策
 - VII. フランスにおける教員の研修
- おわりに：フランスにおける教員の育成策から日本への示唆

それではご覧ください

フランスの教員養成制度と 近年の改革動向

～今後の日本の教員養成を考えるために～

服部憲児

(京都大学大学院教育学研究科)



本書の構成

はじめに

- I. 近年の日本における教員の育成政策
- II. フランスの教育制度
- III. フランスの教員制度
- IV. フランスの教員養成制度改革
- V. マクロン政権下における教員養成制度改革
- VI. フランスにおける教職への人材誘導策
- VII. フランスにおける教員の研修

おわりに

: フランスにおける教員の育成策から日本への示唆

あとがき

本書の主な着眼点

日本の教員養成をめぐる状況から...

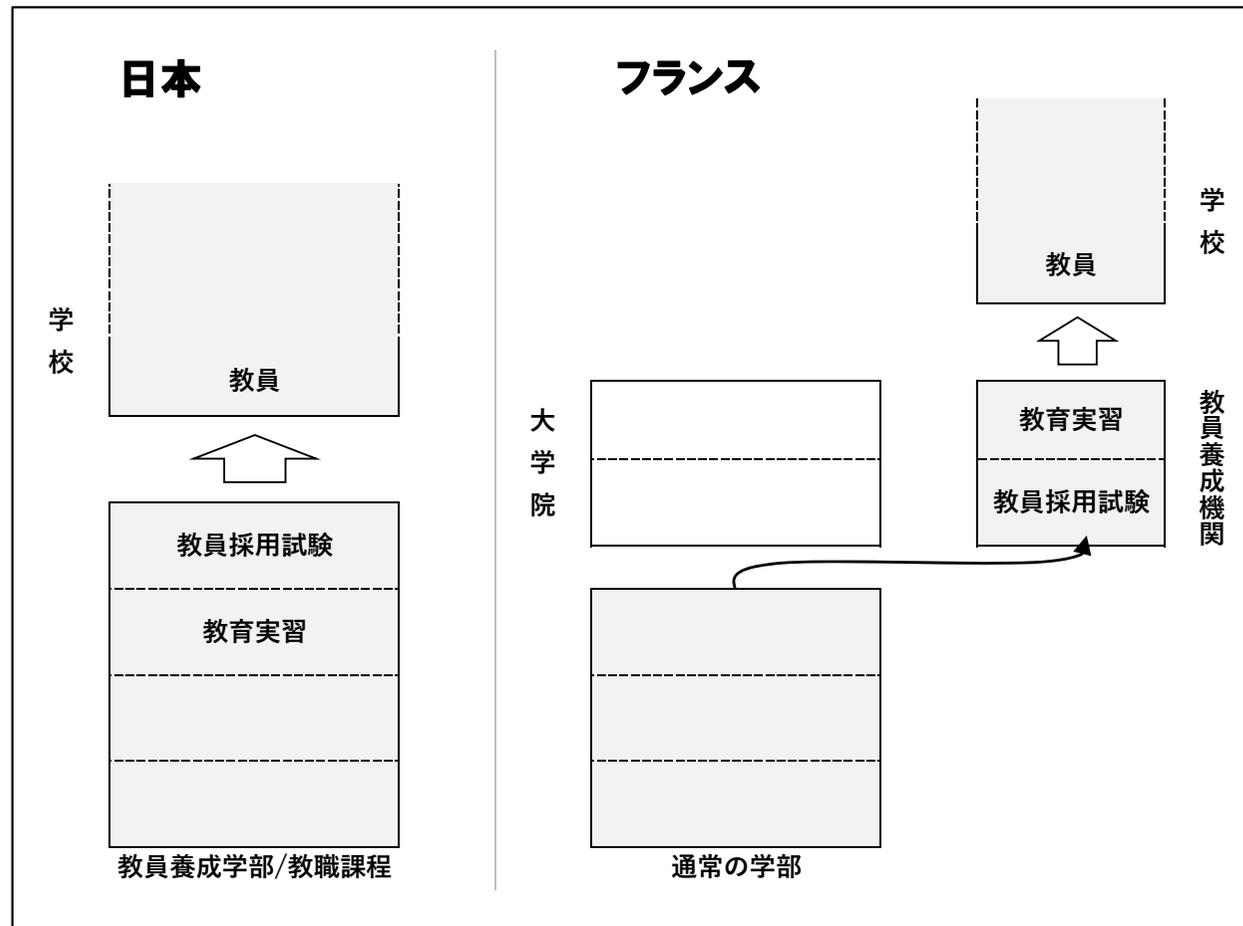
①実践的指導力に対する強い要請 (IV・V)

②「学び続ける教員像」と研修 (VII)

③教職への円滑な入職／リクルート (VI)

近年の教員養成制度改革

1980年代末：教員養成の一元化（Bac+5）



近年の教員養成制度改革

1980年代末：教員養成の一元化（Bac+5）

2010年：「修士化」改革（Bac+6：教職離れの一因）

※実習時間減

2013年改革（Bac+5） ※研究＋実践

2021年改革（Bac+6） ※実習時間確保

近年の教員養成制度改革

- 教員の格上げ
- 研究力と実践力のバランス
- 実習と採用試験
- 学生の過剰負担

教職への人材誘導策

- 段階的職業化
- 教員志願者の不足

- EAP(学校での教育補助業務)の導入
 - 導入期:人材誘導＋経済的支援
 - 改変:地域・教科限定

 - 再改変:段階的職業化の位置づけ明確化

教員の研修

特徴

- ・管理職・事務職・行政職も含む大規模な研修計画
- ・手段の多様化（ICTの活用など）

課題

- ・教員間の温度差
- ・教育現場・教員の実状との乖離
研修の受けにくさ / ニーズとのズレ
- ・研修の成果の測定（実践への効果）
- ・インセンティブ

日本への示唆

- 教員の研究力(教員版「生きる力」)
- 実習と採用試験(配置)
- 教職志望者の取り込み: 処遇／体系性
- 研修のニーズ・インセンティブ
- 自主性と体系性
- 制度の中にいる人々への眼差し
学生負担や教員の実状への対応など